

ペルー ブドウのシーズンは力強く回復し過去最高の輸出で終了へ

[The Grape Reporter 2025年2月18日](#)

ペルー北部の2024-25年度の生食用ブドウの出荷シーズンは、気候変動の問題にもかかわらず、目覚ましい成長を遂げている。エコサック社の総括マネージャーであるホアキン・バラレゾ氏は、同国が近年のシーズンを上回る8千万箱の記録的な輸出量に達すると推定している。水不足が続いていることは生産者にとって依然として課題であるが、ピウラ県での年2回の収穫は、この地域が新技術を導入し、世界市場での競争力を保つ能力を浮き彫りにしている。

LinkedIn(ビジネス用SNS)では、リマ市南方のイカ県に拠点を置くサフコペルー輸出会社の総括マネージャーであるベンハミン・シジョニス氏等の出荷業者が、現在終了間近のペルーの2024-25年度産ブドウの出荷シーズンについて、心強い数字を共有している。

バラレゾ氏は、出荷シーズンが順調に進んでいると考えている。同氏は、「今年はペルーの生食用ブドウの輸出にとって好ましい年であった。弊社では、昨シーズンの約490万箱に対して、今年は630万箱強を輸出した。全国では、昨シーズンの約6,300万箱に対し、今年は約8千万箱に達すると推定している」と述べ、「この出荷シーズンには、出荷数量と国際価格という2つの重要な側面がある。一部の国からの供給が減少したため、様々な市場の価格が堅調に推移している」と付け加えた。(以下「」は同氏の話)

ペルーのブドウ作の主な課題は、国内の他の作物と同様に、気候変動である。「2022-23年度の出荷シーズンには、エルニーニョ現象が収穫に影響を与え、生産性と品質が低下した。北部の2023-24年度出荷シーズンは、これまでに経験したことのない灌漑用水の不足から始まり、ようやく回復が見え始めている。」

ピウラ県の生産者達は長年にわたり、灌漑用水の極端な不足に悩まされてきた。場合によっては、水文年度の最初の3カ月(9月、10月、11月)に農業が深刻な影響を受け、作物の損失をもたらした。

「1月以降、ポエチョス貯水池の主な流入河川であるチラ川の水量は改善しており、現在もそれが続いている。しかし、今日までの流入量を積み上げると、最終的な水量はまだ「普通に水不足の年」に分類される。ピウラ川の状況もよく似ている。ピウラ高地で雨が降ると予報されたのはようやく今月になってからであり、それはすぐにその流量に反映されるはずであるが、現時点ではまだ乾燥している。」

北部では年2回収穫

同氏は、ピウラ県の農業では、より信頼性の高い灌漑用水の供給を確保するために、イカ県で使用されているものと同様の筒井戸を準備する必要があると強調した。「州のインフラもさらに多く必要であり、既存の資源を適切に管理し、追加の貯水池を整備するべきである。」

ペルーが生食用ブドウに関してチリや南アフリカからまだ学べるかどうかについて、同氏は「我々は常に他の生食用ブドウ生産国から学ぶことができる。我々は協力者であり、経験を共有することにオープンである」と述べた。

ペルーの気候では新品種の迅速な試験が可能であり、これは他の国よりも有利な点である。「我が国では気候が多様であり、多くの品種を開発することができる。北部の気候は(南部の)イカ県とは大きく異なり、同じ年に植え付けと収穫を行うことができる。これにより、試験の結果をより迅速に取得できる。例えば、シュガークリスプ、アツラ15、エスカロタなどの一部の品種では、以前は不可能と考えられていた年2回の収穫が行われている。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)